

生研第22031号
令和4年7月19日

校長・准校長 様
理科・生物科・農業科 様

大阪府高等学校生物教育研究会
会長 柴原 信彦

令和4年度大阪府高等学校生物教育研究会
第1回実験研修会について（案内及び依頼）

盛夏の候、貴校におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃は本研究会の活動に特別のご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。

近畿大学生物理工学部、先端総合技術総合研究所の研究成果は専門論文誌だけでなく新聞等やマスコミでも度々取上げられております。昨年度の12月に「マンモス復活プロジェクト」から「マンモスプロジェクト2」へ ～マンモスがつなぐ、過去・現在・未来～と題した学術講演会を開催し、多くの先生方に参加いただきました。

さて、令和4年度の生物教育研究会の第1回実験研修会を下記のとおり開催いたします。今回は来年夏に大阪で開催される日本生物教育会全国大会大阪大会におけるプレ実験研修会としての位置づけで生殖工学技術の一端を体験いただこうと「マウスの体外受精操作実習」を企画しました。自然科学系の教員ならきっと興味をもって学んでいただける内容です。

つきましては、校務多忙のこととは存じますが、理科・農業科担当教員のご出席について、ご配慮いただきますようお願いいたします。

記

1. 日時： 令和4年8月19日（金） 午後2時00分～5時00分
2. 場所： 近畿大学生物理工学部5階発生工学実験室
(和歌山県紀の川市西三谷930 TEL：(0736)77-3888)
(最寄駅JR紀伊駅下車、紀伊駅前より和歌山バスで生物理工学部キャンパス内に)
3. 講師： 近畿大学生物理工学部遺伝子工学科 教授 三谷 匡 先生
近畿大学先端技術総合研究所 教授 安齋 政幸 先生
4. 内容： 「マウスの体外受精操作実習」（講師プロフィール、実験研修要旨は次ページに）
5. 定員： 20名（採卵や採精用のマウス等の準備がありますので先着順で20名までとします）
6. 申込： 参加をご希望される先生は8月17日（水）下記のQRコードから申し込みください。ただし参加者が20名を超えた時点で締め切らせていただきます。QRコードの読み取りができない場合は、下記連絡先、本部事務局の岡本宛にメールで「実験研修会参加希望」、「メールアドレス」、「学校名」、「名前」を記入し、申し込み願います。



〈連絡先〉

大阪府高等学校生物教育研究会事務局
(府立事務局) 大阪府立平野高等学校
理科 加藤 励
TEL: 072-334-7400 FAX: 072-334-7439
E-mail: reikt1974@gmail.com

(本部事務局) 大阪教育大学附属高等学校池田校舎
生物科 岡本 元達
TEL: 072-761-8473 FAX: 072-762-1076
E-mail: gentatsu0311@gmail.com

講師プロフィール

◇ 講師 安齋 政幸 先生

近畿大学先端技術総合研究所生物学技術研究センター・教授

○講師プロフィール

- ・放送大学教養学部卒業、近畿大学博士課程修了（工学）。専門は実験動物学、発生工学。
- ・東洋曹達工業（株）、（株）三菱化学生命科学研究所、（株）ジェンコム（株）三菱化学生命科学研究所（兼務）を経て、平成14年より近畿大学先端技術総合研究所に着任。令和3年4月より近畿大学先端技術総合研究所教授として現在に至る。
- ・生殖工学技術を駆使して、アドベンチャーワールドや海遊館など複数の園館と共同研究を進め、人工繁殖技術や生殖細胞の保存技術を開発。また、飼育園館から提供される動物組織から体細胞を取り出しクローン技術による転写誘導の開始時期の特定、さらに初代培養細胞を樹立することで次世代へ繋ぐ研究資源の提供を展開。
- ・日本受精着床学会雑誌第4回優秀論文賞受賞。動物生殖工学研究会理事。

◇ 講師 三谷 匡 先生

近畿大学生物理工学部遺伝子工学科・大学院生物理工学研究科・教授

○講師プロフィール

- ・京都大学大学院農学研究科畜産学専攻博士後期課程修了。農学博士（京都大学）。専門は生殖生物学、発生工学。
- ・明治乳業（株）ヘルスサイエンス研究所研究員、PPL Therapeutics Inc. (Virginia, USA)、国立小児病院小児医療研究センター実験外科生体工学部研究員、徳島大学分子酵素学研究センター情報細胞学部門助手を経て、平成14年より、近畿大学先端技術総合研究所講師として着任。近畿大学発ベンチャー第1号となるジーンコントロール株式会社設立と取締役を兼任。平成30年より、生物理工学部に移動、現在に至る。
- ・哺乳動物の受精・発生のしくみ、幹細胞の制御メカニズム、発生工学を駆使した絶滅危惧動物の再生などを研究。
- ・日本受精着床学会・常務理事・編集委員長、日本IVF学会・理事、日本生殖医学会・代議員。

実験研修要旨

○ 「マウスの体外受精操作実習」

小型実験動物としてのマウスは、最も汎用されているげっ歯類であり、自然発症を呈する病態モデルマウスや遺伝子工学および発生工学技術の進展による遺伝子操作マウスの作製も数多くの系統が樹立されている。この多くの系統を維持・管理するために体外受精・胚移植・胚・精子の凍結保存技術などの生殖工学技術が確立するに至っている。

本実習では、この生殖工学技術としてマウスの体外受精、配偶子凍結保存、顕微授精技術について概説する。（補遺：マウス、培養液、酵素、ガラス器具等の諸費用は近畿大学生物理工学部様にご負担いただきますので、無料で体外受精等の発生工学技術を体験することができます。）